

# 保幼小連携推進準備会議での主な協議内容

## 1 開催概要

保育所・幼稚園と小学校の円滑な接続を図るため、保育所、幼稚園関係者と現状等について意見交換を順次実施。

区分	福井地域	坂井地域	奥越地域	鯖丹地域	南越地域	嶺南地域
保育所	9/8 私立 (40人)		9/13 公私立(18人)	10/5 公私立(32人)		9/9 公立 (28人)
幼稚園		9/29 公私立(34人)			9/30 公私立(15人)	10/6 公私立(7人)

## 2 主な協議結果

### ① 福井市民間保育連盟 (9月8日)

保育所と幼稚園は接点を持つべきだが、国の新システムの関係で抵抗感がある。幼稚園は、延長保育など長時間保育を実施するなど保育園化している。

福井市では、中学校単位で保幼小連携を実施している。実施例の中には機能している中学校区域もある。

### ② 嶺南地域公立保育所 (9月9日)

保育所側が小学校の授業などの様子を観覧する機会は結構あるが、小学校の先生が園に来ることはほとんどなく、機会を作って(保育所の)様子を見に来てほしい。

保育要録は「ここまで育ったよ」という関わりの記録。これを(小学校に)提出することによって、子守りと言われていた保育士の地位が上がったと感じている

### ③ 奥越地域公私立保育所 (9月13日)

小学校側は保育所に対し熱心に様子を見に来てくれる。この交流により、小学校側にかんがりの情報伝達ができている。

特定の園児に対し、就学前に小学校の先生が来園し、様子を見に来てくれる。保育所側も事前に保護者との面談日程も調整し、3者面談をするようにしている(保護者の事前承認を保育所が調整)。市教育委員会にはマニュアルを整備している。

### ④ 坂井地域公私立幼稚園 (9月29日)

毎年、保幼小連携会議を2～3回程度実施(小学校校区単位)。

4月	小学1年生担任教諭と卒園児担任幼稚園教諭との意見交換会
5月	卒園児担任幼稚園教諭が小学校授業等を参観、小学1年担任教諭と意見交換
2月	4月入学児童のクラス分けを議題とした保幼小連携会議を開催(要録は3月に提出)

最近の保護者は、英語、体操、スイミングなどの才能を伸ばす教育には関心を示すが、あいさつをすることや茶碗・箸を持つ、正しく鉛筆を持つ、規則正しい生活など日常的に身につけていく基本的なものを見過ごしているのではないかと思われる。

⑤ 南越地域公私立幼稚園（9月30日）



越前市では小学校校区ごとに「保幼小連携会議」を毎年3回程度開催。

小学校側が提示した様式に基づき、毎年1月頃に4月に小学校入学予定の園児に関する情報を提供（保幼小連携会議）。

クラス編成等に必要の情報として提供し、要録は3月以降に別途提供。

私立幼稚園においても、卒園した園児の様子を見学するため、年1回小学校を訪問し、担任教諭と意見交換も併せて実施。

小学1年生に対し、小学校がどのような内容の授業を実施しているのかが併設幼稚園でも十分理解・把握していない。

保育所では、1人の保育士で30人の園児を養護している。事故や怪我の防止に最大限の注意を払うことで精一杯と思う。幼稚園では1人の幼稚園教諭で15人程度であり、指導要領に基づく学びの芽生えなどの指導に対応することが可能な人数と思われる。

⑥ 鯖丹地域公私立保育所（10月5日）

小学校に出掛け、卒園児の様子を見学したことがある。しかし、小学校教員は園に来たことがない。園では、小学校見学の結果、園の保育方法に反映したことはある。

以前、小学校教員と意見交換をした際に、ひらがなや数字を保育所で教えた方がよいかと聞いたところ、教えることは構わないが、正しい鉛筆の持ち方と正しい書き順を教えるように言われた。



⑦ 嶺南地域公私立幼稚園（10月6日）

小浜市幼児教育センターを小浜幼稚園内に設置（所長は小学校教諭OB）。保育所・幼稚園主催で小学校教員を対象とした見学会、逆に小学校主催で保育所・幼稚園教員を対象とした小学校見学会を毎年開催。同時の担任教員同士の意見交換会を実施し、顔の見える関係を構築している。

保護者を含めた保育所・幼稚園参観日を設定し、保護者（保育所・幼稚園児や小学校低学年児童の保護者）の園運営の理解を深めている。

学力・体力全国トップレベルということはよく聞こえてくるが、幼稚園現場では、頭のよい子を育てるといふより、みんなを平等に、また、若干遅れ気味の幼児を十分養護していくことが重要だと思う。